



広島大学附属福山中・高等学校

広島大学附属福山高等学校同窓会オリーブ会 合同企画

オリーブの環 2005

2005.11.05

お三方のお話の全てを通してテーマになっているのは、自分がどう生きるかということだと思います。自分が本当に好きなことは何か、学校で何を学ぶのか、何を感じ取って生きていくのかは、重要なことです。大きな社会の中で自分の役目は何か、満足のいく生き方はどのようなものかは、人の一生を通じての課題だと思います。

この学校についての考えも、とても大きなことだと思います。私が卒業した後も、附属は心のふるさととなって、ここで学んだことを社会で生かし他人のためになれることが学校への恩返しになると思います。

自分自身は長い一生の中で、人間が常に見つめ続けることができる唯一の人間です。自分と他人の一番大きな違いは、他人のことに対しては客観的になれるが、自分にその場で客観性を持つことはなかなかできません。しかも一方で、一人の人間が自分の手で動かせるのは現在だけです。過ぎ去ったことに対していくら客観的に見ても、それはもう手が届かないのです。現在をどう生きるか、これが重要になると思います。

人間関係、あるいは他者とのかかわりの難しさ、そしてそれ以上に、大切さについて、お三方のお話から再認識させられました。どうしても私には私の、相手には相手の思う価値があるから、すべての人に対し正確に平等につまりは客観的に認識をすることは難しい。だからこそ、時として譲歩をすること、また礼儀や尊敬の念を示すことで、相手との関係を結んで学校で学ぶことが、こ

の先重要になっていくだろう、と臆気ながらも感じます。

今この学校で学ぶ私たちが身に着けていくべきものは、一つはそのような相手への理解・思いの示し方、そしてそうするためにはどうすればよいのかを考えるための力、最後にそういったものの中でも何かを共有できる友人との関係なのでしょう。きっと。

この先どのような道を歩いて行くことになっても、この学校で身につけたもの、いわばこの学校の精神のようなものを持っていられたら、と思います。

現在を考えて将来を考えるのではなく、将来を考えて現在を見つめなければいけない 今日この講演の中でこの言葉が最も印象に残りました。そろそろ自分も本格的に進路を考えるにあたり、気になるのは現在の成績ばかりで、将来何がしたいのか、どういうふうに生きていきたいのか、そんなことから目をそらしていた自分に気づかされる思いでした。将来やりたいことを「無理だから」と決めつけて、思い続けるどころか、努力も、願いさえもしなかった自分が今は恥ずかしいばかりです。志を持つのは難しいことだと思います。自分の中から、一部でもそれを見せることで周囲から受ける評価や批判、根拠もない勇気づけやからかいが、私には気になってしかたありません。でも今日の講演で、自分が自分を信じて夢を持つということの可能性の大きさを垣間見ました。もっと頑張ってみようと思うことができ、この講演は私にとって有意義なものでありました。



三人の方の講演を聞いて共通して印象に残ったのは「人との関係性」です。教育であれば先生や友人から学ぶこと、報道であればその情報を伝えようとする発信者がいること、外交であれば、異文化理解の上で交渉が成立すること、会社経営であれば信頼できる同志と一緒に商売をしていくこと、どれも相手がいるからこそできることです。生きていくことは本当に自分一人では不可能なんだと改めて感じました。そのような人との関係性を大切にしてきたから、今日の三人の方は充実した人生を送っておられるんだと思います。

高校は、その他者とのつながりを作っていく、とても大切な場です。三谷さんが、今でも高校の友達と交流を続けておられると聞いて、私はとてもうれしくなりました。今一緒にいて楽しいだけでなく、本当につらい時、苦しい時に助け合えるような、また社会に出てそれぞれの環境は変わってしまっても、

お互いに支えになれるような人とのつながりを、この高校生活の中で広げていきたいと思いました。

